COOP SAPPORO CSR REPORT 2019

コープさっぽろCSRレポート2019

つなぐ
COOP
SAPPORO

COOP SAPPORO CSR REPORT 2019

コープさっぽろCSRレポート2019

編集方針

コープさっぽろは、2005年から「環境・社会貢献報告書」の発行を始めました。2007年からはコープさっぽろの社会的責任（Corporate Social Responsibility: CSR）の視点から活動を報告する「CSRレポート」にあらため、多様なステークホルダーの皆さまの関心に応える情報開示に努めてきました。

コープさっぽろのCSR活動は、「事業」と「組合員活動」の両面から成り立っています。報告にあたっては、コープさっぽろの基本姿勢に則して推進している日々の活動の方針や内容を、その進捗状況とともに報告することを基本としています。持続可能な社会の実現に向けて、コープさっぽろが果たすべき役割は何か、そしてどのような取り組みを行っているのか、活動の一部ではありますが皆さまにお伝えできれば幸いです。

● 報告対象期間

2018年度の主な活動を中心にまとめていますが、補足的に当該年度以前の情報、2019年度以降の継続的な活動や将来の目標も報告しています。また、事業概要は2019年3月20日現在のものです。

● ホームページでの情報公開について

コープさっぽろでは、情報の開示にあたり、本レポートのほかにホームページを活用しています。ホームページには本レポートの記載内容に加え、2018年度事業報告、損益状況などのより詳細な情報を掲載しています。（当該情報に関するホームページの公開は、2019年6月を予定しています）

ホームページURL
https://www.sapporo.coop/

● 発行年月および次回発行予定

2019年5月発行。
次回は2020年5月の発行を予定しています。

CSRレポートに関するお問合せ先

生活協同組合
コープさっぽろ 秘書室

〒063-8501
札幌市西区発寒11条5丁目10-1
TEL. 011-671-5602

CONTENTS

コープさっぽろの伝言（新理念体系） …… 01
TOP MESSAGE …… 02
特集 北海道胆振東部地震と復興支援
災害と地域政策 …… 04

2018年度活動報告

Challenges for SDGs
持続可能な地域社会を目指して …… 08
人と人をつなぐ事業の輪 …… 10
人と食をつなぐ事業の輪 …… 16
人と未来をつなぐ事業の輪 …… 22

2018年度環境活動報告

環境理念と環境方針 …… 27
環境データ報告 …… 27
TOPICS 2018 …… 29

コープさっぽろの組織概要

基本情報 …… 30
組合員動態 …… 31
事業所数と形態 …… 32
コープさっぽろの活動に対する期待と意見 …… 33

コープさっぽろの新しいマーク

つなぐ

COOP SAPPORO

組合員さんや職員の強い願いや思いから生まれた新しい取り組みに掲げる、「安心」と「革新」の旗印です。
安全・安心を感じ、新鮮で若々しく、生命力を感じるコープグリーンを全道中へと広げていきます。

コープさっぽろの伝言（新理念体系）

コープさっぽろの合い言葉	つなぐ
コープさっぽろの理念	北海道で生きることを誇りと喜びにする。
コープさっぽろの使命	「安心」と「革新」
各事業の考え方	「店舗」……いのちの基本である「食」を大切にする。 「宅配トドック」……笑顔をとどけ、笑顔をいただく。 「移動販売車カケル」…どこまでも買物の楽しさと便利さを載せて行く。 「社会給食」……健康と成長を見つめる仕事。 「エネルギー」……北海道で自立して持続可能な再生エネルギーを推進する。 「水工場」……北海道のかけがえのない資産を預かっている。 「共済」……助けあいの心を、ひとつにする。 「フリエ」……家族のひとりとなり、家族のひとりをお見送りする。 「トラベル」……人生という旅をさらに豊かにする。 「生活文化事業」……学ぶ喜びを生涯の楽しみにする。
コープさっぽろが大切にすること	わかちあう　ささえあう　おもいあう　たすけあう まなびあう　ふれあう　たたえあう

TOP MESSAGE

一人ひとりの行動と実践を積み重ね、地域にもっと頼られる存在を目指す

コープさっぽろ理事長
大見 英明

北海道と共に、次の50年へ

コープさっぽろは、2016年に創立50周年を迎えました。その際に「次の50年の安心と革新を築く」というスローガンのもと、食を中心としながら北海道に暮らす人と人を「つなぐ」プラットフォームを目指し、北海道が抱える課題解決に向け、行政と連携して事業を進めることを確認しました。

2018年は、地方の人口減少と少子高齢化がさらに進みました。介護保険料の値上げは年金受給額の減少に直結し、食料品の値上げもあり、首都圏を除く全国で購買力が落ち込みました。加えて2019年には消費税増税などを控え、消費マインドはより減退し節約志向が高まると予想されます。

我々を取り巻く環境はより一層厳しさを増すと考えていますが、組合員さんが出資し、利用し、運営に参加することで成り立つ協同組合組織として、コープさっぽろは組合員さん・北海道民のより良いくらしの実現に向けて事業と活動を推進します。

地域政策室とファーストチャイルドボックス

そうした中で、2018年度は「もっと地域でできることを考える」をスローガンに掲げ、さまざまな取り組みを行ってきました。なかでも4月より創設した「地域政策室」（P7参照）では、62市町村を訪問し地域の課題のヒアリングを行いました。その中で、宅配や移動販売などの事業が住民にとって重要なライフラインであると、行政が認識していることが分かりました。地域への取り組みでは、コープさっぽろは2013年に北海道庁と包括連携協定を締結しており、その一環として、北海道150年記念の事業として『ファーストチャイルドボックス』（P23参照）の取り組みを開始しました。少子化が進む中、新生児を産むお母さん方の子育ての一助になればと思います。今後も地域政策室では行政単独、コープ単独では難しいことは連携して、地域の課題を解決することを目指していきます。その他の新たな取り組みとしては、2018年10月に北海道では初めて

となる自動倉庫型ピッキングシステム「オートストア」を宅配システムトドックで導入し、食料品だけでなく日用品も手軽に購入できるようになりました（P10参照）。宅配センターや店舗に併設しているトドックステーションでは、組合員さんからいただいたご意見を基に木製おもちゃを設置しました。組合員さんの相互のフリーマーケットの取り組みも進み、お互いに助け合いの場として機能しています。店舗事業では、より多くの方が店舗へ足を運んでいただくために店内撮影を許可するなど、SNS時代への対応も進めています。

「一人は万人のために、万人は一人のために」震災から学んだこと

2018年9月に発生した北海道胆振東部地震では、私たち自身が協同組合モデルの意義を改めて感じる経験となりました。以前より1995年の阪神・淡路大震災時のコープこうべの復興支援活動の教訓を職員と共有し、災害時には「組合員さんのためにできることを考える」との行動指針が周知されていたおかげで、今回の震災でもその意識付けが職員の行動として発揮されたと思います。震災後には宅配トドックの利用者が3万人増加しましたが、これも職員一人ひとりの行動を組合員さんが見ていてくれていたからだと思っています。我々一人ひとりの行動と実践こそが生協そのものであると感じました。

もっと地域に貢献できる存在になろう

コープさっぽろは、国連が定めた「持続可能な開発目標（SDGs、P9参照）」に沿った事業活動を積極的に実践していきます。店舗事業では組合員さんが買物をする場から「つどう場」への対策を進め、EC店舗にはないリアル店舗の強みを活かした店舗づくりや新商品開発を重点的に推進し、宅配事業では食料品カタログの強化や、さらなる高齢者支援対策を進めていきます。また、災害に強い、役に立つコープとして地域との連携を強め、工場の生産体制を増強し、非常用電源の設置を進めます。

2019年2月には、エネルギー事業会社のエネコープが経済産業省北海道経済産業局主催の「北国の省エネ・新エネ大賞」の優秀賞を受賞し、地域循環型社会のモデル事業として評価を得るなど、地域社会・経済・環境の課題に統合的に取り組んでいます。

そのほか、15のコープさっぽろ関係会社はそれぞれの事業ビジョンを明確にして自走力を高め、連携を強化することで、北海道の皆さんのくらしに役立つ事業を推進します。地域でできることを考えたその先に、2019年度は「もっと地域に貢献できる存在」を目指していきたいと思います。

特集

北海道胆振東部地震と復興支援

災害と地域政策

2018年9月6日午前3時7分59秒、胆振地方中東部を震源地としたマグニチュード6.7の強い地震が発生しました。震源に近い厚真町では震度7、安平町で震度6強の揺れを観測。土砂災害、液状化現象といった被害のほか、3時25分には全国初の全域停電「ブラックアウト」が起こりました。

未曾有の災害でしたが、コープさっぽろでは災害時の基本姿勢が以前から職員間で共有されていました。それは「私たちは地域の組合員さんのために存在する。できることは自分で考えて行動せよ」というもの。その中で職員たちはどう動き、それは地域の方々にどう受け止められたのか。震災時の活動の記録を特集します。

9月6日～8日

地震発生から通常業務への復旧

地震発生後の全道的なブラックアウトにより、コープさっぽろの108店舗を含めた全施設も停電しました。特に震源地に近いむかわ店では、修理に12日間を要する損壊があり、そのほか石狩地区の5店舗でも被害を受けました。

未明かつ停電の真っ暗闇の中、コープさっぽろの各施設には、被害状況を確認しにきた責任者を筆頭に、続々と職員が集まりました。電子施錠により入れなくなった施設もありましたが、さまざまな工夫で電源を確保して解錠しました。業務を開始できるようにと、時に鍵や窓を壊すなど柔軟な対応も随所で見られました。

4時台にはコープさっぽろ本部に緊急対策本部が設けられ、ホームページに震災ページを開設して情報発信し、内部向けネットワークを活用して決定事項を随時指示しました。各事業所でも被害状況を把握・報告し、店舗は臨時営業を始め、宅配はできる限りの配達を行いました。停電のために業務を停止せざるを得なかった部門も、電力復旧後の業務再開に向けて準備を進めました。

また、災害時における救援物資供給などの各協定により、北海道や各自治体に救援物資を納入し、地域で期待される役割を果たしました。その後、停電解消のめどが立った8日17時をもって緊急対策本部は解散しました。

被害を受けたむかわ店

店頭販売には多くの方が訪れ、行列の整理や熱中症予防などにも職員が手分けして取り組みました

■9月6日～8日の事業実施状況

店舗	6日／旭川市内3店舗で通常開店（20時閉店）。105店舗は店頭でパン・カップ麺などの臨時販売を実施（商品なくなり次第終了）。 7日／全店開店。46店は通常営業。それ以外の通電店舗は臨時販売と並行して開店準備を進め、最終的に62店舗が開店。残り46店舗は終日臨時営業。 8日／昼までに107店舗が通常開店。むかわ店は移動販売車での臨時販売。デリカ部は米を確保し、コロッケ2,000食を各店舗へ。
宅配	安全確保しながら6日から5万8,000件の配達を実施。7日分の配達は8日に変更。コールセンター通電せず。
配食	幼稚園給食は全休。 6日／苫小牧・函館・札幌は配送、旭川・北見・日高・浦河は配送中止、帯広は支援食を配達。 7日／札幌、苫小牧でいなり寿司4個セット3,800食を配達。 8日／工場停止中のため、個配送は停止。
移動販売車	7日から商品限定で運行開始。
工場	停電により3工場は生産停止。7日より砂川工場の米を店舗へ移送。 大雪水資源センターは断水地域へ配達開始。
物流	ドライ品は配送対応。 北広島・江別への自治体へ支援品を運送。
システム	6日は全事業所停電、サーバー系・データセンターは復旧次第稼働。7日に43店舗、8日に61店舗のストアコンピュータ復旧。
エネコープ	7日・8日に営業車用の軽油100L確保。

私は こう動いた

待っていた子どもたちのために楽しみを届けたトドック。

震災当日、置戸町で「スマイルキャラバン&えほんわくわくキャラバン」の合同開催日でした。町は停電でしたがたくさんの子どもたちがトドックが来るのを楽しみに待っていて、スタッフも到着していたので車から電源を取って音楽を流しイベントを決行。後日、子どもたちがとても喜んでいたとアンケートの返答があり、開催して本当に良かったと思いました。（基金事務局）

私は こう動いた

電気も、水もない中で暮らしを支える店舗の役割を実感。

大きな揺れに3時半に店舗の様子を見に行き、破損はなく安心した直後、停電が始まりました。すぐに電気は来るだろうと軽く考えていましたが、朝7時に職員・パートが出勤しても店舗は真っ暗のまま。近くの病院の方が「患者さんに薬を飲ませるための水がない」と裏口にやってきて、世の中が大変なことになっていると気づきました。すぐに店舗から大雪の水5ケースをお渡しし、さらに準備を進めて店舗入口付近でパンなど食料品や水、電池、ガスボンベを電卓で計算しながら販売しました。（旭川・4条通り店）

私は こう動いた

信号が消えても、エレベーターが止まっても。

震災当日の配達は信号が点灯しない中、事故に注意しながらの運転となりました。真っ暗な長いトンネルの走行など、各地域担当者は時に恐怖の中、品物を待つ組合員さんのためにと駆け回りました。また札幌市内では、停電により集合住宅のエレベーターが停止。階段を登り、28階の高層階に住む組合員さんにも注文の品をお届けしました。翌週にはお礼の手紙が続々届き、苦労が報われた気持ちになりました。
（宅配運営部）

私は こう動いた

暗闇の中で配食を待つ方々へ1万5,000個のいなり寿司作り。

病院給食を担当する病院で3食提供のめどをつけた後、通電した時に「これでご飯が思いきり炊ける。配食を待つ高齢の方々に何か届けられないか」と思いました。病院からもレストラン厨房の使用許可をいただき、「酢飯は日持ちするのでいなり寿司を作ろう」ということに。多くのスタッフが応援に駆けつけてくれ、夜通しの作業でいなり寿司4個入り3,800パックを作り終えました。週明けにご利用者さんの「おいしかった、ありがとう」の声が届き、やってよかったと心の底から思いました。（社会給食事業部）

9月10日・11日

被災地のために、私たちは何ができるか

9月10日からは、各部署の業務は通常に戻りました。業務復旧に向けて走り回る間にも、次々と寄せられる被災地の状況や不安に過ごす被災者の情報に、職員は何かできることはないか考えていました。

店舗は9月10日から、宅配システムトドックは9月17日から緊急募金の受付を開始しました。12月15日までに約5,000万円が集まり、被災しながらも助け合いの心が寄せられました。全国の生協からの募金も合計すると約3億5,000万円となりました。このうち1億円を、被災した生産者の皆さんへお見舞金として、同じく1億円を各自治体へ贈呈し、2019年1月までにすべての使途を組合員さんへご報告しています。

9月11日には、30年前に留萌で起きた水害を体験した職員の発案により、本部の職員が厚真町・むかわ町の全戸を訪問し、洗濯用・食器用洗剤をお見舞いとしてお届けしました。

全戸訪問の様子

私はこう動いた

被災した子どもたちに絵本と一緒に笑顔をお届け。

「被災地の子どもたちに少しでも元気を届けたい」。その思いから、トドックと一緒にむかわ町のこども園や離乳食の炊き出し所を訪問し、35組53名のお子さんに絵本をプレゼントしました。お子さんたちはトドックの登場に大喜び。お子さんの誕生日を控えていたお母さんにも感謝され、届けてよかったと思いました。（宅配運営部）

私はこう動いた

勇気づけるための訪問で大きな信頼を感じた。

戸別訪問に参加しました。お見舞い用の洗剤は、手分けして1時間足らずで仕分け。いざ戸別訪問を始めた際、組合員さんたちからは「お店はいつ直るの」、「地震当日も宅配が来たよ」などと激励を受け、さらに組合員さんではない方にも信頼して応対していただき、「わざわざありがとう」と感謝の言葉をいただきました。また涙を流して喜ばれる方もおり、期待に応えていく責任を強く実感しました。（コープさっぽろ本部）

■全国募金の結果

募金総額	365,354,407円
募金の最終配分（2018年9月）	
JA北海道中央会	100,000,000円
厚真町	40,000,000円
安平町	48,000,000円
むかわ町	46,000,000円
北広島市	5,150,000円
札幌市	83,000,000円
日高町	7,500,000円
平取町	5,000,000円
北海道	19,097,691円
被災地支援活動費	2,606,716円
被災地支援活動助成	9,000,000円

10月以降

日常のくらしを取り戻せない方々を支えるために

10月に入ってもまだ被災地では自宅に戻れない方が多くいらっしゃいました。10月13日～11月11日の間、むかわ町で最も大きな避難所となっていた道の駅「むかわ四季の館」で食事を提供しました。避難されていた方たちの中には高齢の方も多かったため、コープの専属栄養士が配食サービスや幼稚園給食、病院給食をアレンジしてバランスのとれた献立でお届けしました。10月7日には、「第6回高校生チャレンジグルメコンテスト in HOKKAIDO」（P21参照）で、高校生が地産地消の食材で作った創作料理約100食を、むかわ四季の館にお届けし、避難者の皆さんに召し上がっていただきました。

コープ共済は「異常災害お見舞金」の支払いを決め、まずは厚真町・安平町・むかわ町で被災した加入者へ、次に札幌市清田区や北広島市など、札幌市近郊で被害状況の大きかった地域で手続きを実施しました。

10月28日には元ホテル料理長でコープ専属の波川調理師がキッチンカーでむかわ四季の館を訪れ、温かい料理を振る舞いました

現在

地域の安心のために、災害体験から学びを

今回の震災によりたくさんの課題が浮かび上がりました。店頭臨時販売には、多くの喜びと感謝の声をいただきましたが、各配食・惣菜工場では停電のために十分な商品供給ができませんでした。そのため、災害時に最低限必要な電力を確保するためにすべての店舗・宅配センターに非常用電源の設置を進め、配食・惣菜工場では停電時も通常通りの生産ができるよう自家発電を導入する準備を進めています。

また、今回職員が体験したことや、その中で気づいたことは未来へと残し、つなぐ必要があります。職員やパートナー、組合員さんがコープさっぽろの中で体験したさまざまな気づきや心あたたまるエピソードを「思い出の小箱」という冊子に記し、職員に共有してきました。そこで、全職員から気づきやレポートを集め、「思い出の小箱　震災編」にまとめ、2019年度に職員に配布します。マニュアルだけではない震災時の手引きとなるものを残し、未来のコープさっぽろと仲間たちが災害時の地域に貢献することを目指します。

思い出の小箱
震災編

北海道からの感謝状

私は こう動いた

助け合いの共済を知っていただくことが大切。

「異常災害お見舞金」の手続きで被災地を訪問したのは、避難所生活に疲れた方々とお話しする機会ともなりました。お話をお聞きする中で、今後はいざという時の備えの大切さをさらに伝えていかなければと思いを強くしました。札幌市周辺では10月に入ってから、近隣店舗での請求申請をお願いしました。案内チラシを作成・ポスティングし、一人でも多くの方にお見舞金をお届けしたいという気持ちで手続きを進めました。（共済推進室）

より地域のニーズに応えていくために

地域政策室について

コープさっぽろは2018年より、地域のニーズに応える活動をするため各市町村と協議を行う地域政策室を設けています。これまでに62市町村への訪問活動を行いました。その中で多くの自治体が買物不便地域への対策支援（P12参照）を課題にあげられ、移動販売車の運行要望が寄せられています。

2019年度は新たに50市町村への訪問を進め、地域のさまざまな課題について地域とともに解決することを目指します。自治体との連携をスムーズに進めていくため、コープさっぽろが連携可能な分野・事業を紹介するパンフレットを作成し、提供する予定です。

また、北海道胆振東部地震の教訓から、災害時協力協定をより円滑に運用すべく、自治体の担当部署との緊急連絡体制の確立も目指しています。

移動販売車「おまかせ便カケル」（P12参照）

2019年3月19日北広島市での移動販売車出発式の様子

地方自治体連携用
パンフレット

Challenges for SDGs
持続可能な地域社会を目指して

**コープさっぽろは道内全域をカバーするインフラを備え、
さらに各自治体や関係団体との連携体制を築き、
地域の課題解決に向けて、事業と組合員活動の両面で取り組んでいます。
北海道が抱える課題は、やがて全国的な課題となり、
世界各地の地域が抱える課題ともつながっていきます。
コープさっぽろはさまざまな課題解決の手法を蓄積することで、
身近なところから世界共通の課題まで幅広く取り組み、
持続可能な地域社会をつくることに貢献していきます。**

人と人をつなぐ事業

社会の問題を解決
コミュニティづくり
助け合い

- コープ宅配システム「トドック」(P10)
- オートストア(P10)
- トドックステーション(P11)
- 高齢者見守りとあんしんサポーター(P11)
- 買物不便地域への取り組み(P12)
- 移動販売車「おまかせ便カケル」(P12)
- Socia店リニューアル(P13)
- コープトラベル バリアフリーの旅(P13)
- 魅力的な店舗づくりの取り組み(P13)
- 地域まるごと元気アッププログラム(P14)
- 認知症予防に向けた取り組み(P14)
- コープさっぽろのファイナンシャルプランナー(P15)
- 介護施設へ給食提供(P15)
- コープさっぽろのお葬式フリエ(P15)

人と食をつなぐ事業

北海道の豊かな食文化創造
食育(食べる・たいせつ)
食の安全・安心

- コープ配食サービス(P16)
- 安全・安心な食の提供への取り組み(P17)
- アニマルウェルフェア(P17)
- 食べる・たいせつフェスティバル(P18)
- トドックフードバンクとフードキャラバン(P19)
- 食育研究会(P20)
- 畑でレストラン(P20)
- 農業賞のつどい(P20)
- 魚の調理教室(P21)
- 食育の取り組み(P21)
- 広報誌『Cho-co-tto』(P21)
- 高校生チャレンジグルメコンテスト(P21)
- コープ文化教室(P21)
- ホイリゲ北海道(P21)

人と未来をつなぐ事業

- 子育て応援
- 北海道を豊かに発展
- 環境活動と持続可能なエネルギー

- えほんがトドック（P22）
- 高校生・大学生育英奨学金（P22）
- ファーストチャイルドボックス（P23）
- フィンランド サンタクロース訪問（P22）
- おしごとキッズ（P23）
- 清田おしごとごっこフェス（P23）
- 雇用への取り組み（P24）
- ベトナム・サイゴンコープ研修受入れ（P24）
- 再生可能エネルギーへの取り組み（P25）
- RE100宣言加盟（P25）
- エコセンターの取り組み（P25）
- 西日本豪雨災害への緊急募金（P26）
- 平和スタディツアー（P26）
- 核兵器廃絶国際署名参加（P26）
- ブータン水と衛生プロジェクト（P26）
- コープ未来の森づくりプロジェクトと森の利活用（P29）
- ホッキョクグマ応援プロジェクト（P29）
- トドック探検隊『真冬の旭山ZOOキャンプ』（P29）

つなぐ
COOP SAPPORO

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

2015年9月の国連サミットにおいて「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）」が採択され、すべての人が持続可能な社会の中にあり、経済・社会・環境が一体となって向上した未来を実現するための具体的な目標として「17のゴール」が設定されています。この目標に向けて取り組むことにより、コープさっぽろが北海道という地域社会への貢献ができると考えています。続く活動報告ページでは、取り組みと特に関係性の深い分野をアイコンで表示します。

2018年度
活動報告

人と人をつなぐ事業の輪

高齢化、過疎化などの問題に直面する地域で、商品・サービスをしっかり届け、くらしを守るとともに、コミュニティづくりによって絆を守ることもコープさっぽろの役割です。

コープの目標 組合員さんの家に商品と安心を届け、つながりを深める

SDGsの目標 3 すべての人に健康と福祉を / 9 産業と技術革新の基盤をつくろう / 11 住み続けられるまちづくりを / 12 つくる責任 つかう責任

コープ宅配システム「トドック」

配送拠点の新設とサポートサービス拡大

コープ宅配システム「トドック」は、組合員さんの自宅に商品を届けるサービスで、全道179市町村の登録者36万人超が利用しています。買物の負担を減らし、店舗の少ない地域にも安定して商品を届けることができます。

従来以上の利便性向上や効率化を目指し、2018年には札幌市内に配送拠点となる大谷地センターを新設。さらに網走市、伊達市、大樹町ではセンターを補完する役割のデポが新たに稼働し、道内の総拠点数は44となりました。

また、システム手数料が無料になる「赤ちゃんサポート」の条件として、これまでは妊婦および0～3歳未満の子どもがいる家庭としていましたが、制限を6歳未満に引き上げたため、利用者の幅が広がりました。

今後も組合員さんとの接点を増やし、つながりを強化するための取り組みを続けます。

■宅配登録人数（2019年3月20日時点）

369,067名（前年比104.6%）

笑顔で商品を届ける地域担当者

物流業界注目の「オートストア」導入

ノルウェーで開発された自動倉庫型ピッキングシステム「オートストア」は、格子状に組まれた鉄柵の上をロボットが縦横無尽に走行し、商品を入出庫するシステムです。省スペースで豊富な商品を保管できるとして、物流業界から注目を集めています。コープさっぽろは北海道で初めて、またスーパーマーケット業界の物流会社として国内で初めて同システムを導入しました。これにより、トドックで取扱う日用品の数を2万アイテムにまで増やすことができました。

さらに、職員の腰につけたセンサーに反応して、カートが自動追走する物流支援ロボット「キャリロ」も導入しています。ロボットシステムの導入は、職員の労働環境改善につながり、働き方改革の一助となっています。

格子の上を走るロボット

台車型物流支援ロボット「キャリロ」

コープの目標 地域住民との交流によって信頼を高める

SDGsの目標

トドックステーション

「トドックステーション」は、宅配センターと店舗にあるコミュニティスペースです。大きな黒板や木のキッチンなど小さなお子さまが楽しめるおもちゃを設置しています。同施設では、子ども服、おもちゃ、絵本などを回収し、安価で販売する「トドックフリマ」や、親子で楽しめるイベントなどを開催しています。

2018年度はエリアを拡大し、稚内、八雲、オホーツク、きたみ春光店の4カ所に施設をオープンし、全13カ所となりました。トドックフリマでは、絵本の販売額を100円に統一するなどして利用しやすい環境づくりに努めています。イベントは、参加予約が簡単にできるよう予約受付システムを導入し、サービスの強化を図りました。

地域住民と職員とのつながりを深める場として、より利用しやすい環境づくりを進めていきます。

トドックステーション

成果を見る **2018年度トドックステーション実績**

利用者数	フリマ総売上
32,547名	1,008,600円
(2019年3月20日時点)	(2019年3月20日時点)

コープの目標 高齢者見守りの輪を全道に広げる

SDGsの目標

高齢者見守りとあんしんサポーター

トドックの地域担当者は毎週決まった曜日・時間に組合員さん宅を訪問するため、高齢の方が暮らす世帯には見守りの役割を担っています。緊急時にスムーズな連絡ができるよう道内の各市町村と「高齢者見守り協定」を締結しており、2018年度は174市町村にまで増えました。

また、70歳以上の独居世帯には見守りの専門員「あんしんサポーター」が訪問し、配達についての要望の聞き取りなどを行っています。あんしんサポーターの人数は現在20名ですが、超高齢社会に対応すべく、今後も増員を計画しています。

成果を見る **高齢者見守り実績**

高齢者見守り協定締結数	2018年度高齢者見守り総件数
174市町村	425件
(2018年度は8町村と新たに締結)	(死亡12件、異変52件、無事361件)

高齢者世帯を訪問する様子

コープの目標 地方から小売店舗がなくなるのを防ぎ、買物不便地域を発生させない

SDGsの目標 3 すべての人に健康と福祉を / 9 産業と技術革新の基盤をつくろう / 11 住み続けられるまちづくりを / 17 パートナーシップで目標を達成しよう

買物不便地域への取り組み

知内町での店舗開設

知内町は、町民調査で買物利便性の低さが従来より挙げられており、2017年3月には町内唯一のスーパーマーケットが閉店しました。コープさっぽろはかねてから買物不便地域の問題に取り組んでおり、小売店舗のない地域に出店してきました。そこで地域からの要請を受け、2018年8月24日に知内町と協定を結び、2019年7月に店舗をオープンします。また、開店に合わせて町がデマンドバス※の運行を行う予定であり、店内に待合所となる交流スペースを設け、地域のにぎわいを生み出す計画です。

知内町との協定式

※デマンドバス…定まった路線ではなく、予約に応じて適宜ルートを変えて運行する乗合バス。交通空白地域を中心に知内町が実証実験を行い、2019年5月から町内全域で運行予定です

北竜町「COCOWA」での事業提携

2016年に北竜町からの事業提携要請を受け、2018年4月21日にオープンした、第3セクター・北竜振興公社が経営する商業活性化施設「COCOWA（ココワ）」の小型スーパーマーケットの運営に協力しています。商品やサービス、店舗運営のノウハウの提供を通じ、過疎地域の地方自治体への機能提供支援としてビジネスモデルを構築していきます。

COCOWAオープンの日にはたくさんの買物客が訪れました

コープの目標 買物不便地域エリアに商品と買物をする楽しみを届ける

SDGsの目標 3 すべての人に健康と福祉を / 9 産業と技術革新の基盤をつくろう / 11 住み続けられるまちづくりを / 17 パートナーシップで目標を達成しよう

コープの移動販売車「おまかせ便カケル」

過疎化で小売店舗がない、または少ない地域、距離のある店舗への買物が困難な高齢者の多い地域に、移動販売車「おまかせ便カケル」を運行しています。2018年度は地域の要請により増車を行ったほか、地域政策室との協力により、行政との協力体制確立に向けて連携しました。この取り組みは各方面から注目を集めており、日本生活協同組合連合会の勉強会開催や、大学での研究などさまざまな取材依頼にも協力しています。買物不便地域への対策のモデルとなるよう、事業を発展させていきます。

震災後の鵡川店エリアでも移動販売車が活躍

成果を見る **おまかせ便カケル**

128市町村
54店舗91台での運行

コープの目標 店舗の魅力を高め、人が集まり組合員さんどうしをつなぐ場所にする

SDGsの目標 11 住み続けられるまちづくりを

Socia（ソシア）店リニューアル

2018年9月28日（金）、「Socia（ソシア）店」がリニューアルオープンしました。水産コーナーには対面販売が新設され、市場直送の鮮魚やお寿司を提供。惣菜を取扱うデリカはオープンキッチンとなり、売場も拡大しました。また、リカーコーナーには初めての導入となる、ウォークインのワインセラーを設置。適切な温度管理のもと、バリエーション豊富な商品を取扱うことが可能となりました。併設のコープドラッグでは、医薬品販売許可を持った薬剤師が第1類医薬品を販売しています。

1階のエントランスホールには、誰でも自由に演奏ができる「Daredemo Piano（だれでもピアノ）」が誕生しました。子どもから大人まで、組合員さんどうしを新たに「つなぐ」機会になればとの願いを込めて設置したものです。

Daredemo Pianoで音楽イベントも実施

対面販売となった水産コーナー

Motto つなぐ 魅力的な店舗づくりの取り組み ▶▶▶

SDGsの目標 3 すべての人に健康と福祉を / 5 ジェンダー平等を実現しよう / 11 住み続けられるまちづくりを

コープトラベル「バリアフリーの旅」

高齢や障がいなどの理由で旅をあきらめることがないよう、コープトラベルでは「バリアフリーの旅」を全道15店舗で受付けています。航空機利用の際の車いすやサポート、バリアフリーの宿泊先、介護福祉車両など、利用者ごとに異なるニーズに対して最適なプランを立て手配します。「高齢で歩くのに不安がある」「旅行中車いすを押してほしい」など、さまざまなご要望にお応えし、生涯旅を楽しむお手伝いをしています。

情報誌「コンシェルジュ」

組合員証の提示で割引や特典サービスを受けられる、さまざまなお店や施設などの情報をまとめた「コンシェルジュ」を発行しています。店舗や宅配トドックでの配布のほか、2018年9月からはWeb版も開設し、いつでもどこでも閲覧可能になりました。

あいの里店アウリンコ

「子育てひろば」の参加者が多いあいの里店で、子どもがいつでも遊べる場所を提供したいという思いから、遊びを通して創意工夫し、五感をのばすキッズスペース「アウリンコ」を開設しました。子どもの成長に合わせ、店長体験やおつかい体験などさまざまなプログラムも実施しています。また、コープさっぽろ保健師による子育てママ支援「ネウボラの日」も月1回開催しています。

子育て応援の施設拡充

2人の子どもを乗せられるカート導入やイートインへのキッズコーナー併設、完全個室型の授乳室の設置開始など、2018年度は子育て応援のための施設拡充にも取り組みました。授乳室、完全個室型授乳室それぞれ2店舗の設置が進んでいます。

子どもカート

コープの目標 高齢の方々に体力に合わせて無理なくできる運動プログラムを提供し、健康寿命を増進

SDGsの目標 3 すべての人に健康と福祉を / 11 住み続けられるまちづくりを / 17 パートナーシップで目標を達成しよう

地域まるごと元気アッププログラム

ゆる元体操の指導者養成

コープさっぽろはNPO法人ソーシャルビジネス推進センター、北翔大学と協働のもと、「地域まるごと元気アッププログラム」(通称まる元)で高齢の方を対象にコミュニケーション型運動教室を提供しています。また、高齢の方が一人でも安全に楽しく運動できるよう北翔大学が開発した「ゆる元体操」の普及にも取り組み、全道で指導者講習を実施し認定を受けた方は400名を超えました。2018年度からは札幌市と石狩市の文化教室で、一般の組合員さん向けに指導者養成講座を開始し、2回で22名の方が合格しました。

文化教室講座の様子。合格者は、地域の社会福祉協会に登録するなどして町内会などで体操指導に取り組んでいます

効果検証のための認知症機能テスト

「まる元」の認知症予防効果を示すため、2017年から北翔大学が中心となり調査研究を進めています。寿都町と北竜町の70歳以上の方を対象に認知機能テストを実施し、両町とも30%前後の方が「予防対象者」に該当しました。5歳ごとの年齢区分では70〜74歳でも20%弱の方が該当し、年齢に比例し割合が高くなる傾向がみられました。今後も調査を続け、「まる元」などの運動に参加している人、自宅に閉じこもっている方の経年変化を検証していきます。これらの活動は2018年からコープ共済連「健康づくり支援企画」の支援により進めています。

寿都町悉皆調査の様子。これまでに寿都町288名、北竜町232名に実施しました

成果を見る

まる元開催実績

24市町村80クラス開催

登録者1,580名

2017年度より

3自治体増加

コープの目標 高齢でも認知症になっても安心して暮らせる元気な地域へ

SDGsの目標 3 すべての人に健康と福祉を / 11 住み続けられるまちづくりを / 17 パートナーシップで目標を達成しよう

認知症予防に向けた取り組み

認知症になりにくいまちづくりを目指して

「まる元」同様の3者協働で、道内市町村に「認知症になりにくいまちづくり宣言」を勧めています。宣言済みの市町村は9自治体になっており、地域包括支援センターと連携して、認知症の理解と予防を普及・啓発するとともに、認知機能の低下した状態(MCI)の方を早期に把握し適切な支援につなぐための活動をしています。2018年度に実施した認知機能テストでは、6市町村でMCIの方を90人把握でき、主治医や保健師さんの相談・支援につなぐことができました。

成果を見る

認知症になりにくいまちづくり

認知機能テスト

6市町村 815名実施

認知症の正しい知識や予防を学ぶ

長寿社会を豊かに暮らすため、認知症の理解を深めて正しい知識や予防について学ぶ「認知症予防講演会」を開催しました。認知症は発病前のMCIの期間に、運動や脳を活性化することで、予防とともに発病を遅らせることができるとわかっています。発病しても適切なケアによってその人らしい充実した生活を送れるよう、地域の大学や医療機関、地域包括支援センターなどから多くの講師にご協力いただきました。2018年度は開催場所を2カ所増やしました。

札幌会場の様子

ちょこっと参加、なが～く元気「ちょこっと茶屋」

店舗が地域の交流の場と元気の発信元となることを目指し、イートインなどの空きスペースで「ちょこっと茶屋」を開催しています。行政機関や地域包括支援センター、社会福祉協議会、介護予防センター、町内会の福祉関係者などの協力をいただいています。2018年度は24店舗で開催し、店舗により週1回から月1～2回、各種測定や介護予防体操、脳トレ、よろず相談などさまざまな内容で実施しています。

成果を見る

認知症予防講演会

10カ所812名参加

函館・小樽・北見・帯広・苫小牧・岩見沢・釧路・旭川・室蘭・札幌

コープの目標 子どもから学生、高齢の方まで、くらしのお金について必要な情報を提供する

SDGsの目標 4 質の高い教育をみんなに / 11 住み続けられるまちづくりを

コープさっぽろのファイナンシャルプランナー

2019年1月13日には「しれっと認知症介護」著者の工藤広伸氏を招き講演会を開催

コープ共済は「自分の掛金が誰かの役に立つ」という助け合いの制度で、北海道胆振東部地震の際にも活用されています（P7参照）。また、くらしのお金にまつわる疑問や不安について、9名のライフプランアドバイザー（LPA）が情報提供を行っています。全員がファイナンシャルプランナー資格を持ち、学習会や個人相談、講座、講演会などさまざまな形で役立つ知識を伝えています。「食べる・たいせつフェスティバル」（P18参照）での子ども向けのイベントや、大学での学生向けセミナー、社会福祉基金発行の「奨学生通信」への連載など、若い世代への知識提供も積極的に行っています。

Motto つなぐ

高齢化社会に向けた取り組み ▶▶▶

SDGsの目標 3 すべての人に健康と福祉を / 11 住み続けられるまちづくりを

介護施設への給食提供

関連会社のコープフーズ（株）は、2018年4月1日から札幌市内の3つの介護施設に給食の提供を開始しました。これまで病院給食を提供してきたノウハウを生かし、入居者さんの健康に配慮し、地産地消・道産食材を基本とした安全・安心でおいしい食事を提供しています。

コープの家族葬「フリエ」終活フェア

コープさっぽろは、月寒と新琴似に葬儀ホール「フリエホール」を設け、その方に合ったスタイルのお葬式を執り行っています。フリエホールでは、ホール見学を兼ねた「終活フェア」を年3回実施しています。葬儀やお墓、各種手続きの相談に加え、会葬品わけあり市や人形供養などを行い、270名の参加をいただきました。

2018年度 活動報告

人と食をつなぐ事業の輪

安全・安心でおいしい食品を届けることはもちろん、食への興味・関心を持ってもらう機会をつくり、食を通して地域の活性化に貢献することも私たちの役割です。北海道の食文化がより豊かになるよう、さまざまな取り組みを行っています。

コープの目標　食事の用意が困難な人、食事制限がある人など、さまざまな家庭の食事を支える

SDGsの目標　3 すべての人に健康と福祉を　11 住み続けられるまちづくりを　12 つくる責任 つかう責任

コープ配食サービス

配食エリア拡大と新規拠点開設

「高齢者の在宅支援と安否確認」を目的に、2010年からスタートしたコープの配食サービス。その後高齢の方だけでなく、産前・産後の女性向けの食事や、アレルギーにも対応した幼稚園給食など、幅広いメニューを用意し、ご利用いただいています。

2018年度は5月から苫小牧地区の白老町竹浦、帯広地区の大樹町と広尾町が新規エリアとして加わり、伊達デポ、網走デポ、大樹デポの3拠点が新設されました。配食をお求めの皆さんの元へ、お届けできる体制を強化しています。

大樹デポでの出発式の様子

新調味料とメニュー表リニューアル

配食サービスは、食材の切り方や調理方法、盛り付け方など、寄せられるご意見をもとに日々改善に励んでいます。食べ飽きない優しい味を求め、2018年9月には、昔ながらの製法で作った調味料に変更しました。日本一といわれる置戸町の給食をつくり上げた管理栄養士・佐々木十美氏にご指導いただき、そのまま飲んでもおいしい本みりんや、手作業でていねいに作られたごま油、平釜製法の塩を取り入れています。

新調味料を使ったメニュー

幼稚園給食の容器

また、11月からはメニュー表を切り替えました。旧メニュー表では注文変更を行う組合員さんが少ない状態だったため、利用される方に多様なメニュー選択ができることを伝えていけるよう、大幅に構成を変更しています。さらに組合員さんに社会参加の場を設けることを目的として、趣味やペットなどの紹介ページをつくりました。少しずつ投稿も増え、楽しんでいただいていることを感じています。

成果を見る　**配食サービス実績**

配食サービス登録人数 **7,670名**

幼稚園給食取引園数 **73園**

〈週平均食数〉(2019年2月期)

配食サービス……32,000食
(普通食15,400食、低カロリー食14,900食、その他1,700食)

コープの目標 良質な食品の提供により、食卓に安全と安心を届ける

SDGsの目標

安全・安心な食の提供

アニマルウェルフェアへの取り組み

コープさっぽろは、2017年9月から全店で平飼い卵の取扱いを開始しアニマルウェルフェア（動物福祉）への取り組みを始めています。北海道生活協同組合連合会、NPO法人北海道食の自給ネットワーク、コープさっぽろが共催し、アニマルウェルフェアを学ぶ講演会を2018年10月27日に開催しました。帯広畜産大学畜産学部瀬尾哲也准教授を講師に迎え、家畜本来の生き方を尊重しストレスを排除することで、飼育薬物の使用が減り、肉質の改善にもつながることを学びました。安全で質の高い畜産物提供のために、今後も学習と普及に取り組みます。

講演会の様子

成果を見る

平飼い卵販売実績

2017年度
35,545,047円

2018年度
49,274,970円

前年比
139%

グルテンフリー商品の取扱いを強化

食物アレルギーを引き起こす食品で卵、牛乳に次いで多いのが小麦です。コープさっぽろは組合員さんからの要望を受けて、店舗・宅配ともにグルテンフリー商品の取扱いを強化しています。「料理をつくる人を増やす」という目的のため、グルテンフリーの醤油やつゆなどの基礎調味料も扱い、現在は道内の約70店舗で展開しています。

店舗にはグルテンフリー商品の特設コーナーを設置

エージレス米の取扱いを開始

脱酸素剤エージレスを封入し、真空パック包装された精米商品の取扱いを2018年3月から始めました。エージレスはカビや虫の発生を抑制する効果があり、未開封時のみ、お米の鮮度を精米日から3カ月間保つことができます。

従来は精米日から14日を経過した商品は店から撤去し廃棄していました。しかし、エージレスの封入により販売期限が3カ月間と飛躍的に伸び、食品ロスの削減につながっています。

オリジナルブランドのココナッツオイルを販売

関係会社のコープトレーディング株式会社は、オリジナルブランド「TRADING.CO」のエクストラバージン・ココナッツオイルをベトナムから直輸入し、2018年6月からコープさっぽろの全店舗で販売を開始しました。自然の恵みが育んだココナッツオイルです。

北海道ゆきほまれ大粒納豆が全国納豆鑑評会でダブル受賞

コープさっぽろが立ち上げたブランド「北海道100」の一つである「北海道ゆきほまれ大粒納豆」が、2019年2月に開催された第24回全国納豆鑑評会の大粒・中粒部門にて、優秀賞と特別賞を受賞しました。本商品はこれまでのカップ台紙を廃止し、環境に配慮したパッケージになりました。

コープの目標 生産者と消費者がつながる機会を提供し、子どもたちが北海道の食や地産地消を学ぶ場をつくる

SDGsの目標

食べる・たいせつフェスティバル2018

2018年の開催で11回目を迎えた「食べる・たいせつフェスティバル」は、コープさっぽろ最大の食育イベントです。道内の生産者やメーカー、行政、学校などが出展し、クイズや簡単な料理などの参加型体験プログラムに参加することで、「食べることの大切さ」や「環境」や「くらし」について楽しく学ぶことができます。また、生産者との交流を通して、地産地消の大切さを伝える場となっていきます。

2018年は8月～10月にかけて、道内の8つの地域で開催しました。参加した親子からは「子どもも親も楽しめた」「このイベントがきっかけで、食べることや作ることに興味が湧いた」などの声が寄せられています。

各団体とともにプログラム開発に力を入れ、地域の活性化にもつながる食育イベントとなるよう、今後も内容の充実を図ります。

北海道ぎょれん札幌支店「命に感謝!タコの生態を学んでたこ焼きを食べよう!」

ホクレン農業協同組合連合会北見支所&北海道米食率向上戦略会議
「オホーツクきたゆきもちを使用した自分好みのおはぎを作ろう」

■地区別開催状況（来場者数、出展・支援者数）

開催日	地区	会場	来場者数	出展数	支援者数
8月25日（土）	札　幌	スポーツ交流施設「つどーむ」	10,021	126	1,044
9月22日（土）	室　蘭	日本工学院北海道専門学校	3,019	58	458
	釧　路	釧路市観光国際交流センター	3,344	54	301
9月29日（土）	旭　川	道北アークス大雪アリーナ	5,052	78	525
	北　見	サンドーム北見&サンライフ北見	4,267	73	475
10月　7日（日）	帯　広	十勝農協連家畜共進会場アグリアリーナ	3,272	74	396
10月13日（土）	苫小牧	苫小牧駒澤大学	3,853	61	422
	函　館	函館市国際水産・海洋総合研究センター	3,560	68	402

成果を見る 食べる・たいせつフェスティバル2018

来場者数 36,388名

出展数 592

支援者数 4,023名

コープの目標 廃棄される食品を減らし、子どもたちの食育にも生かす

SDGsの目標 1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 12 つくる責任 つかう責任

トドックフードバンク

食品ロスの問題に挑む フードバンク事業

賞味期限が近い、または規格外品など、品質上問題がないのに廃棄処分される「食品ロス」問題に取り組むため、2016年から「トドックフードバンク」の活動をしています。宅配トドックなどの返品食品で品質に問題のないものを、児童養護施設やファミリーホームへ無償で提供するものです。食品ロス削減の取り組みでは、北海道と連携して「食品ロス削減セミナー」を実施しました。料理研究家の東海林明子先生と食品ロスをテーマにした料理教室を札幌、旭川、函館、帯広の4店舗において実施し、80人の参加がありました。

料理の楽しさや喜びを伝える活動も

トドックフードバンクは、食品を届けることに加え、届け先の施設で食育イベント「トドックフードキャラバン」も実施しています。子ども料理研究家の（株）のこたべ能戸英里先生が施設を訪問し、子どもたちと一緒に料理を作ります。卒園を控えた高校3年生向けに、料理に親しんでもらう食育イベントも開催しています。

成果を見る トドックフードバンク実績

提供数
58,202,376円
132,421点

施設の提供先
46施設
- 児童養護施設 23
- ファミリーホーム 19
- 市町村 2
- 児童自立支援施設 1
- 公益財団法人 1

トドックフードキャラバン開催数
9施設
参加者
144名

協賛企業からの提供 7団体 8,291,920円

トドックフードバンクのしくみ

①返品食品が宅配センターへ

品質に問題のない返品食品が、道内各地の宅配センターに集められます。このうち、賞味期限が1カ月以上残っている常温管理の加工食品と冷凍品がトドックフードバンクの提供品になります。

②提供品の受渡し

児童養護施設の職員に、1～2週間に1回のペースで、施設最寄りの宅配センターにて提供品を渡します。

能戸英里先生

施設からの声

- たくさんの食品をいただいていることを児童にもわかりやすく説明できるように、献立に工夫をしています。脱マンネリにもつながっており、改めて支援に感謝せざるを得ません。
- 地震による影響で、停電やお店の品薄がありましたが、いただいたお米や飲み物があったので、その点は焦らず安心して過ごすことができました。
- 大学進学して寮に入った卒園生の自炊の食材として、ちょっとひと手間加えるだけのものを選んで渡しています。楽しく大学生活を送っているようで、とても感謝しております。
- フードキャラバンは子どもたちも職員もとても楽しませていただきました。皆さんが帰った後、遊びの中で同じメニューに挑戦する子どもたちが印象的でした。

コープの目標 食育に携わる企業・団体をつなぎ、情報共有を活発にする

SDGsの目標 3 すべての人に健康と福祉を / 4 質の高い教育をみんなに / 12 つくる責任 つかう責任

食育研究会

コープさっぽろは、食育プログラムをさらに充実させていくことを目標に、取引先のメーカーや企業の皆さんと「食育研究会」を実施しています。毎回食育に関わる講師を招き、北海道の食を豊かにするための情報共有の場ともなっています。2018年11月16日には第20回を迎え、公立はこだて未来大学の美馬のゆり教授を講師にお招きして「食を科学する」をテーマにご講演いただきました。最新の食を取り巻く環境に触れ、食に携わる人々は未来に向けてどうあるべきか、考える機会となりました。

■2018年度食育研究会

日付	回数	講師	人数
2018年 7月12日(木)	第19回	岩見沢農業高校の皆さん	約180名
2018年11月16日(金)	第20回	美馬のゆり氏	約180名
2019年 2月22日(金)	第21回	奥田政行氏	約180名

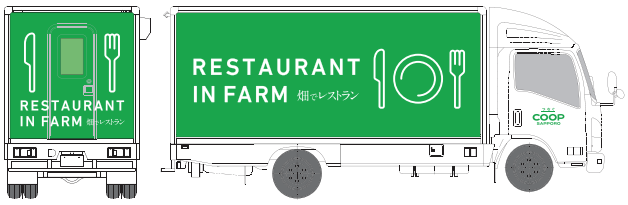
約180名の方が参加し、美馬教授のお話に聞き入りました

コープの目標 生産者と料理人、消費者を結び、北海道農業の新たな魅力を発信

SDGsの目標 12 つくる責任 つかう責任

畑でレストラン

コープさっぽろ農業賞受賞生産者の畑で、名店のシェフが1日限りのレストランを開く「畑でレストラン」は、大好評のグリーンツーリズム企画です。2018年度は開催をお休みし、さらなるイベントの魅力向上を目指したリニューアルを進めました。厨房となるキッチンカーは、新たにスチームコンベクション(焼く・蒸す工程が同時にできるオーブン)を搭載したものに更新し、現場で本格的な料理をお届けできるようになりました。新キッチンカーと共に、生産者と消費者を結びつけるイベントとして発展させていきます。



新キッチンカーデザインイメージ

コープの目標 生産者と消費者の交流の機会を継続する

SDGsの目標 12 つくる責任 つかう責任 / 14 海の豊かさを守ろう / 15 陸の豊かさも守ろう

農業賞のつどい

食の安全や環境配慮、消費者との交流に取り組む農漁業の生産者を、消費者視点で評価し表彰する「コープさっぽろ農業賞」の取り組みを2004年から継続しています。現在は3年に1度表彰を行い、残り2年は受賞生産者や審査委員、組合員さんの交流の機会として「農業賞のつどい」を開催しています。2018年は11月16日に実施し、約170名の参加がありました。受賞生産者の最新の取り組みについての講演に加え、生産者たちと組合員さんが歓談を楽しみました。

コープの目標 魚の調理技術を継承し、食文化を守る

SDGsの目標 4 質の高い教育をみんなに / 12 つくる責任 つかう責任 / 14 海の豊かさを守ろう

魚の調理教室

2014年から札幌市中央卸売市場と協力して取り組んでいる「魚の調理教室」では、魚のさばき方と調理法を広め、食文化の継承と魚の消費拡大につなげることを目指しています。

2018年度は道内8つの地区で50回開催し、参加した総人数は656名でした。教室では、和気あいあいとした雰囲気の中、ホッケやタコのさばき方やくじらの調理法などを教えています。消費者が魚をもっと気軽に食卓に取入れられるよう、今後も活動を続けます。

大学生を対象とした教室の様子

成果を見る

2018年度開催状況

調理教室（地方開催含む）	50回	656名
親子教室	2回	33名
上級コース	2回	31名

Motto つなぐ 食育の取り組み ▶▶▶

SDGsの目標 4 質の高い教育をみんなに / 12 つくる責任 つかう責任

広報誌「Cho-co-tto（ちょこっと）」

「北海道のもっとおいしい食卓を提案」をコンセプトにした広報誌「Cho-co-tto」を毎月1日に発行しています。食材の生産地や生産者にまつわるストーリーを紹介し、料理人や栄養士、栄養学を学ぶ学生たちなどがさまざまなレシピを提案します。

高校生・大学生と食を通して連携

「高校生チャレンジグルメコンテストin HOKKAIDO」を2018年も開催。入賞した北海道標茶高等学校の「北海道がたくさん!!しかサンドBREAD」を道内4店舗で販売しました。また、函館短期大学とコラボレーションし、食物栄養学科の学生が考えた弁当を函館市と近郊の12店舗で販売。湯の川店では学生11名が店頭に立って販売し、弁当85パックが完売となりました。

第7回世界料理学会 in HAKODATE

2018年4月23日・24日、函館市芸術ホールで開催されました。「山菜」をテーマに、国内外の料理人ら31人が登壇し、約700人の聴衆を前に、15の個人発表と6つのセッションを展開。地域の風土や調理などの映像上映や、料理人としての哲学、調理方法・理論など、多彩な内容の発表がありました。

文化教室

コープさっぽろ文化教室では、食育をテーマにした講座を開催しています。2018年は、コープブランドの商品を使った料理教室、妊婦や乳幼児を育てる母親が参加できる料理教室などを実施。また、北海道農政部と連携した食品ロスセミナーを札幌市、旭川市、函館市、帯広市で行いました。多くの参加者が集まり、「学んだことを家で実践してみます」などの声が聞かれました。

弁当の日

子どもが自分でお弁当を作って学校へ持っていくことで、自立心や感謝の気持ちが芽生え、段取り力や自信などさまざまな力をもたらす「弁当の日」。北海道でまだ認知度の低いこの取り組みを「北海道弁当の日応援団」として、さまざまに広める活動を行っています。

ホイリゲ北海道

コープさっぽろでは道内のワイナリーを応援し、道産ワインの認知度を高めようと「ホイリゲ北海道」を8年前から開催しています。11月に開催されたイベントでは、池田町出身で総合ワインコンサルタントの田辺由美先生をお招きし、約100名の参加者と共にホイリゲとディナーを楽しみました。

2018年度 活動報告

人と未来をつなぐ事業の輪

育児・雇用・環境問題などの社会の課題に取り組むことは、地域とその未来を守っていくことでもあります。特に未来の財産である子どもたちが、健やかに学び、成長できる社会づくりを目指します。

コープの目標 絵本によって親子の絆を深め、文化や価値観を継承する

SDGsの目標 4 質の高い教育をみんなに / 5 ジェンダー平等を実現しよう

えほんがトドック

「ずっと親子のたからもの」を合言葉に、読み聞かせをすることが“家庭での親子のふれあい”となることを願い、4カ月に1冊ずつ合計4冊の絵本を無償で届ける「えほんがトドック」。1～2歳の子どもがいる世帯が対象で、2018年度までの延べ登録世帯数は6万9,016世帯、延べ配布冊数は34万9,394冊に達しています。

保育園や幼稚園で絵本の読み聞かせやトドックステージを行う「えほんわくわくキャラバン」は、2012年からの累計で700施設の訪問を達成し、菊水元町保育園にて記念セレモニーを行いました。「えほんでわくわく！ファミリーライブ」は釧路市と音更町で開催し、昨年大好評だった、創作遊び作家・たにぞうさんのステージを行いました。

さらに2018年度から、妊婦とその家族を対象とした「マタニティライブ」の開催を始めています。お笑い芸人の「テツ andトモ」さんがステージを盛り上げ、会場にはたくさんの笑顔があふれました。

成果を見る

えほんがトドック登録者数 **9,544名**

えほんわくわくキャラバン
訪問数 **122施設**
参加園児数 **11,073名**

えほんでわくわく！ファミリーライブ参加者計
大人 **311名**
子ども **267名**

マタニティライブ参加者（4会場総計）
大人 **589名**
子ども **310名**
抱っこ **99名**

開催実績
10月15日（月） 札幌市
10月16日（火） 旭川市
10月17日（水） 苫小牧市
10月22日（月） 函館市

コープの目標 奨学金返済に苦労をする学生や新入職員を支える

SDGsの目標 1 貧困をなくそう / 4 質の高い教育をみんなに / 8 働きがいも経済成長も / 11 住み続けられるまちづくりを

奨学金への取り組み

近年は家計に占める学費負担の増加や低賃金問題などにより、奨学金返済に苦しむ人が増え、大きな社会問題となっています。2017年に創設した「コープさっぽろ大学生育英奨学金」は、卒業後の奨学金返済が不要な給付型です。対象となる高校生・大学生は、コープさっぽろの店舗や工場などでアルバイト就労ができること、学生本人が組合員であることもしくは組合員に加入できることが条件です。

さらに、2019年4月には職員向けにも「奨学金返済支援制度」を導入しました。入社3年目までの大学卒・大学院卒の採用者のうち、奨学金の返済残高のある職員を対象に、返済額の一部を補助するものです。働きやすい環境づくりの一環として、優秀な人材の確保にもつなげていきたいと思います。

公益財団法人コープさっぽろ社会福祉基金

コープさっぽろ社会福祉基金は、1989年に発足した公益財団法人市民生協社会福祉基金が始まりです。奨学金事業では、ひとり親家庭・障がいのある高校生へ返済不要の奨学金を給付しています。2018年は188名の学生に総額2,256万円を給付しました。

成果を見る

大学生育英奨学金利用者数 **255名**（2019年3月時点）

制度を利用したアルバイト採用人数 **278名**（2019年2月時点）

コープの目標 はじめての出産を迎える組合員さんを支援する

SDGsの目標 5 ジェンダー平等を実現しよう / 11 住み続けられるまちづくりを

ファーストチャイルドボックス

ベビーケアアイテムやベビー服など子育てに欠かせないアイテムを、第1子誕生予定の方へ無償で贈る「ファーストチャイルドボックス」の取り組みを、2018年4月から開始しました。コープさっぽろは北海道と包括連携協定を締結して、北海道命名150年事業のパートナーとして企画しました。子育て支援で先進的なフィンランドの「母親手当」の取り組みを参考にしたもので、長年の経験のある工場で生産された、安全で高品質な製品のみを選んでいます。コープさっぽろは子育て世代の方とその子どもへの支援を今後も展開していきます。

成果を見る

2018年度 ファーストチャイルドボックス申込み数

6,779名
（2019年3月20日時点）

フィンランドからサンタクロースが訪問

2018年11月21日･22日には、フィンランドのロヴァニミエ市からサンタクロースをお招きしました。コープさっぽろあいの里店アウリンコでは50名の親子とふれあったほか、市内の児童養護施設などを訪れて子どもたちと交流しました。

コープの目標 働くことの大変さや食の大切さを子どもたちに伝える

SDGsの目標 4 質の高い教育をみんなに / 11 住み続けられるまちづくりを

おしごとキッズ

小学生を対象としたお仕事体験イベント「おしごとキッズ」を、夏休みと冬休みに開催しています。子どもたちはコープさっぽろの店舗で職員と同じ制服に身を包み、売り場やバックヤードで本物の商品や道具を使って、品出しやレジ打ちなどを体験します。2018年は、よりたくさんの子どもたちが参加できるように開催店舗数を増やしました。内容を年々進化させ、流通の仕組み、食材の知識、働くことの大変さや面白さを体験していただけるよう取り組んでいます。

成果を見る

おしごとキッズ実績

2017年度 21店舗 → 2018年度 38店舗

17店舗増

参加人数 573名

「おしごとごっこフェス」でさまざまな仕事に挑戦

2018年12月には札幌市清田区役所との共同主催で「おしごとごっこフェス」を初開催。幼児・小学生合わせて160名が、シェフ、カメラマン、ナレーターなどさまざまな仕事を体験しました。

コープの目標 職場環境を整え、安定的に地域で働けるようにする

SDGsの目標 8 働きがいも経済成長も / 10 人や国の不平等をなくそう / 11 住み続けられるまちづくりを

雇用への取り組み

障がい者雇用の取り組み

さまざまな人が、それぞれの事情に応じた形で働き、輝くことができるダイバーシティへの取り組みを進めています。特に障がい者雇用は、コープさっぽろが長年取り組んできたテーマです。法定雇用率2.2%を超え、より多くの雇用を目指した結果、2018年8月に雇用率5%を達成しました。

今後は障がい者雇用の質を向上させていくため、2019年3月から正規職員登用を制度化。また、工場などの現場の職員にも階層別研修を定型化し、さらに店舗では専門家を派遣した研修も始めます。障がい者パートナー職員が定年まで働き続けられるような環境の実現を目指します。

関係会社のはまなす食品で納豆製造工場に勤める障がい者職員

成果を見る 障がい者雇用率

2017年度 4.87%→ 2018年度 5%達成 426名

海外技能実習生の受入れ

石狩・江別にある食品工場では、中国とベトナムから外国人技能実習生の受入れを行っています。専用の寮を完備し、工場のルールから衛生管理までをしっかりと研修で学んだ後、各工場で実務教育を行っています。また、休日を利用して、自治体や自治会の協力により日本語学習会やイベントなどに参加できるように調整し、実習生が日本の文化にもふれられるようにしています。

工場で実務教育を受ける技能実習生

交流イベントに参加

■技能実習生受入れ数

石狩工場	124名
江別工場	28名
生鮮センター	27名
店舗	21名
ロジサービス	13名
合計	213名

サイゴンコープの研修を受入れ

コープさっぽろはベトナムのサイゴンコープと2016年12月7日事業提携を結びました。2018年7月1日～14日には、サイゴンコープから10名の研修生を受入れ、実習と人的交流を行いました。初日は大見理事長より日本の生協やコープさっぽろの事業について解説し、その後店舗研修、各工場視察、宅配同乗研修などを行いました。また、富良野観光・JAひがしかわとの交流も実施しました。

無期雇用の取り組み

契約職員などの有期雇用の職員は、労働契約が通算5年を超えた場合に無期雇用へ転換可能となることが国のルールで定められています。コープさっぽろではその期間を大幅短縮し、2018年4月より無期雇用に転換できる制度を導入しました。職員は安定した環境で仕事を続けることができ、コープさっぽろにとっても優秀な人材確保につなげることができます。

コープの目標 エネルギーの地産地消で地域づくりや環境問題に貢献する

SDGsの目標

再生可能エネルギーへの取り組み

トドック電力の取り組み

2016年からスタートした電力事業「トドック電力」では、全国の生活協同組合で唯一、100%再生可能エネルギーで電力を供給するFIT電気※メニューを取扱っています。コープさっぽろの事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーにするなどの目標を掲げ、北海道の未来に貢献していきます。

※FIT(Feed-in Tariff)電気…太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーによって発電され、固定価格買取制度によって電気事業者に買い取られた電気のこと。

北海道初「RE100」に加盟

「RE100(Renewable Energy 100%)」は、100%再生可能エネルギーを利用して事業を行うことを目標に掲げる企業が集まる、国際的な取り組みです。2019年4月現在の世界加盟企業数は167社、うち17社が日本の企業です。コープさっぽろは北海道の企業・団体、全国の生活共同組合として初めて、国内13番目に加盟しました。

エネコープの取り組み

2018年6月に旭川のShena(シーナ)店に、各家庭の生活に合わせたエネルギーを提案する「エネコープ相談ラウンジ」を設置しました。同年8月には、エネルギーに関する市民向けのシンポジウムを開催。定員を大幅に上回る200名の参加がありました。

2019年2月、七飯町大沼のバイオガスプラントが、経済産業省北海道経済産業局主催の「北国の省エネ・新エネ大賞(北海道経済産業局長表彰)優秀賞」を受賞。地域における資源循環サイクルの構築や広報活動の取り組みも、地域貢献として高く評価されています。

コープの目標 リサイクル施設を通じて環境への意識を高める啓発活動を行う

SDGsの目標

エコセンターの取り組み

コープさっぽろエコセンターは、全道の事業所や組合員さんの家庭から資源物を回収し、減容などの中間加工を行う施設です(2018年度回収実績はP28参照)。また環境活動の発信拠点でもあり、2018年度は6月16日・17日に行われた江別市のイベント「えべつ環境広場2018」に出展し、2日間で670名にブースにお越しいただきました。11月10日にはエコセンターで初めての体験型イベントを開催し、親子57組162名に参加いただきました。

成果を見る

エコセンター・エコステーション見学者数 1,799名 (2018年4月~2019年3月)

エコセンター内部(全道から集められたダンボール)

エコステーション2完成後6年がたった外観予想図

敷地内の「トドックエコステーション」では、リユース・リサイクル、再生可能エネルギー、植樹、食品ロスが学べる見学コース(予約制)を設けています。2019年6月には、コープ未来の森プロジェクト(P29参照)などのコープさっぽろが行う環境活動を伝える体験型環境教育施設としてエコステーション2「あすもり資料室」がオープン予定です。

コープの目標 自然災害による被災者への支援

SDGsの目標 11 住み続けられるまちづくりを

西日本豪雨災害への緊急募金

2018年7月、西日本を中心に日本各地で豪雨による河川の氾濫や浸水、土砂災害などが発生し、死者が200名を超える甚大な被害をもたらしました。コープさっぽろは被害の大きかった西日本で被災された方々を支援するため「西日本豪雨緊急募金」を実施し、多くの組合員さんの協力により募金総額は5,264万3,390円となりました。寄せられた募金は日本生活協同組合連合会を通じ、義援金として被災者へ届けられたほか、被災地支援の支援金としても活用されました。

成果を見る
募金総額
5,264万3,390円

コープの目標 次世代に戦争体験を伝え、平和を継承する

SDGsの目標 16 平和と公正をすべての人に

平和スタディツアー

戦争・被爆体験を次世代に引き継ぐ活動として、全道各地から選ばれた中学生・高校生が「子ども平和大使」として毎年8月に広島県と長崎県を訪れ、平和について考えてもらう機会を作っています。2018年は13名の学生が参加し、悲惨な戦争被害や核兵器の恐ろしさを学び、自らの学校の全校集会などで発表しました。ツアーに参加した学生からは「平和な日本を守るために被爆者の思いを伝えていきたい」との声が聞かれました。

また、「ヒバクシャ国際署名を進める北海道民の会」よりお声がけいただき、「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」に参加しています。2018年1月15日から始まった署名活動は、多くの組合員さんの協力により2019年2月までに32万2,123筆の署名をお預かりしました。

成果を見る
2018年子ども平和大使
13名
署名
32万2,123筆
(2019年2月までに)

コープの目標 ユニセフ指定募金により、助け合いの心を海外にも向ける

SDGsの目標 6 安全な水とトイレを世界中に 17 パートナーシップで目標を達成しよう

ユニセフ指定募金

ブータン「水と衛生プロジェクト」感謝状を拝受

コープさっぽろは、2010年からユニセフ指定募金※「ブータン『水と衛生プロジェクト』」をスタートしました。これは、ブータンの学校に安全な水道と衛生的なトイレを設置して、子どもたちの衛生環境の改善を目指す取り組みです。2010～2018年度の9年間の送金総額は1億940万8,508円となりました。

また、募金者が2年に1度支援先を訪問し、支援活動の状況を見る「スタディツアー」に組合員さんの代表が参加し、帰国後に報告会を開催して現地の状況を共有しています。

この取り組みを続けてきたことに対し、2018年10月4日にブータン王国から感謝状を拝受しました。今後もユニセフ募金活動を通し、世界の子どもたちを支援する取り組みを続けていきます。

※指定募金…募金の使途をわかりやすくするために、国と使用用途を特定する募金。

徳田ひとみブータン王国名誉総領事をお迎えし、感謝状授与式を行いました

成果を見る
2018年度まで
9年間の送金総額
1億940万8,508円

2018年度 環境活動報告

コープさっぽろは2008年の洞爺湖サミットを機に、環境活動を一層推し進めています。
組合員さんと共に活動を進め、事業活動の中でも環境保全を進めていきます。

環境理念

コープさっぽろは、組合員さんへの「7つのお約束」を基本にして、
組合員さん、役職員が共に手を携えて「くらしの安心」と「より豊かなくらし」のために平和を追求し、
人間を尊重し、地球環境を守り、福祉・助け合いにあふれた地域づくりを積極的に推進していきます。
コープさっぽろは、これらの活動が北海道全域に根ざし、北海道民全体が未来に向けて希望に満ちて生きることができるよう、
持続可能な環境保全型の社会づくりをめざします。

環境方針

コープさっぽろは、店舗・宅配システムトドック・共済などの事業を通じ
組合員さんに安心してご利用いただける安全な商品・サービスを提供し、
北海道全体の豊かなくらしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与していきます。

①事業における汚染の予防に取り組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せる業務執行を実践します。そのため、中期・短期の環境目的・目標を掲げ、定期的に見直しを進めながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

②環境保全にかかわる法令・条例、並びに協定等受け入れを決めた要求事項を順守します。

③この方針を全役職員に周知徹底し、マネジメントシステムの適用範囲内で一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。

④この環境方針を広く公開するとともに、環境活動の全ての取り組みについて定期的に公表します。

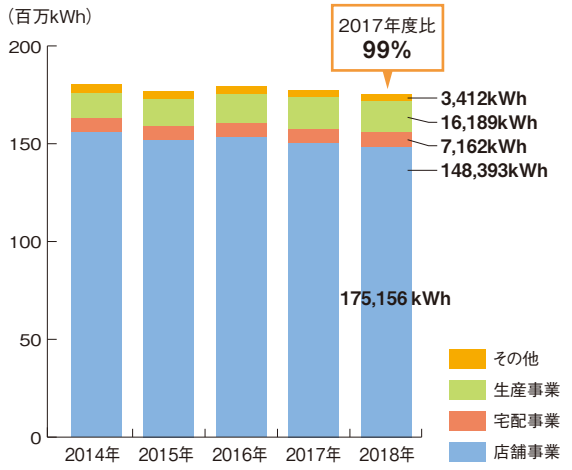
- 電力・燃料等のエネルギー資源を効率的に使用し、地球温暖化防止に寄与します。
- 廃棄物の発生抑制と削減に取り組みます。
- 環境に配慮した事務用品の使用に努めます。
- 環境に配慮した商品の開発と普及に取り組みます。
- 業務の中で環境への配慮が積極的に行われる風土づくりに取り組みます。
- 組合員さんの声に学ぶとともに、地域に対して、環境問題の啓発を進めます。
- 環境保全型の地域社会づくりに取り組みます。

環境データ報告書

温室効果ガス、主にCO_2排出量の削減は、地球温暖化防止のため、事業体すべての大きな課題です。
コープさっぽろは省エネルギーと、再生可能エネルギーの積極的な利用に取り組んでいます。

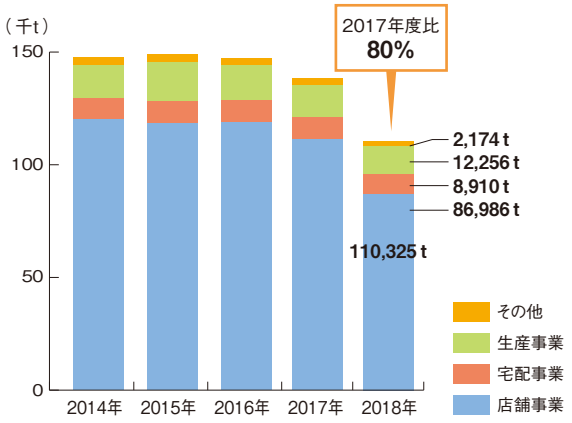
電気使用量

運用面での管理を徹底することで、電気使用量を削減しています。



CO_2排出量

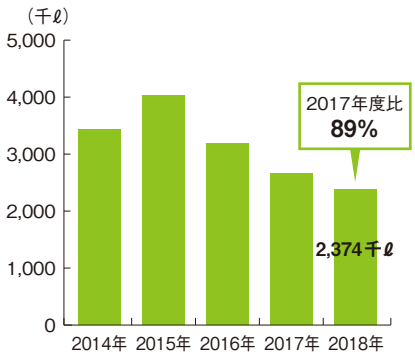
電気使用量の削減とCO_2排出係数の低い電力を選択的に購入することで、エネルギー使用によるCO_2排出量を削減しています。



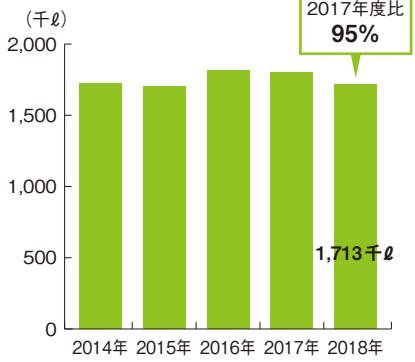
エネルギー使用量（電気以外）

環境負荷の少ないエネルギー源へと使用を順次切り替えています。

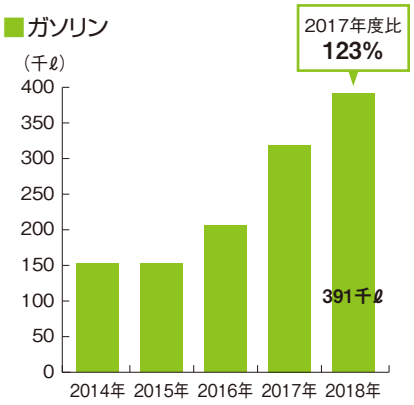
■A重油



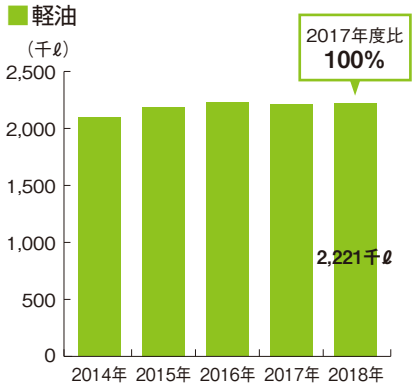
■灯油



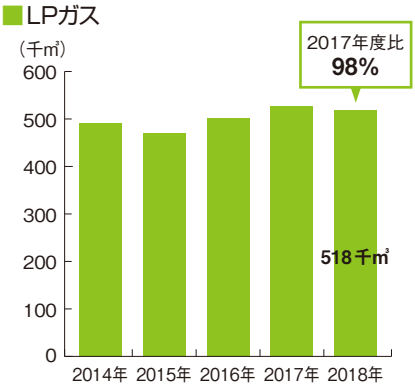
■ガソリン



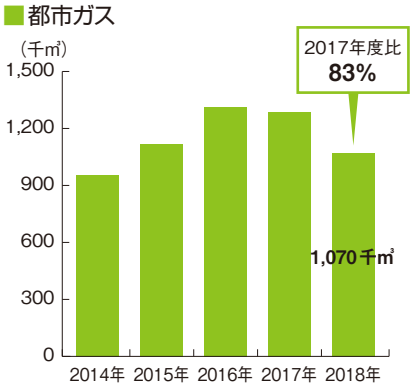
■軽油



■LPガス



■都市ガス



コープさっぽろの資源回収

コープさっぽろは、店舗や事業所から出る資源物のほか、宅配トドックの戻り便を利用して、組合員さんの家庭から出る資源物も回収しています。回収量は毎年増加しており、2018年度は34,493tの資源物を回収しました。これは19,709tCO_2削減に相当します。

■エコセンター回収量

（単位：t）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2017年比
ダンボール	16,617	16,991	17,602	17,598	17,178	98%
紙パック	292	280	283	276	272	99%
週刊トドック	8,950	9,948	11,041	12,085	13,788	114%
新聞紙	975	983	1,000	954	906	95%
発泡	384	411	388	375	374	100%
ペットボトル	58	61	66	47	32	68%
スチール缶	27	18	24	16	14	88%
アルミ缶	44	46	58	68	62	91%
PPバンド	40	42	44	43	33	77%
内袋	125	117	116	116	123	106%
廃食油	769	807	849	861	873	101%
古着古布	21	671	728	747	838	112%
合計	28,302	30,375	32,199	33,186	34,493	104%

古着回収の売上げを北海道ユニセフ協会に募金

2014年3月より、宅配トドックの資源回収で古着回収を行っています。回収した古着はカンボジアでのリユースや、工業用ぞうきんにリサイクルされています。2018年度もこの古着販売による売上金のうち、150万円を北海道ユニセフ協会に募金しました。

TOPICS 2018

2018年度にコープさっぽろが行った環境活動のハイライトをご紹介します。

Topics 1 コープ未来（あした）の森プロジェクト

「コープ未来の森づくり基金（あすもり）」は、店舗でレジ袋を辞退された分を基金として積立て、森づくりに活用するものです。2008年の設立から現在までに2億2,958万7,125円が積立てられ、全道で延べ2万2,562人の組合員さんが、9万7,779本の植樹を行っています。また、森づくりに関わる団体を助成することでも北海道の森づくりを応援しており、18団体（高額3件、小額15件）へ総額400万円を助成しています。

2018年度は初の試みとして、当別道民の森において、植樹祭と育樹祭を同日開催しました。苗木を植え、これまでに植樹した木をお世話する作業を通して、参加者に森を楽しむ一日を過ごしていただきました。

Topics 2 ホッキョクグマ応援プロジェクト

動物園との協働で環境意識を育てる

トドックのイメージキャラクターがシロクマであることから、絶滅危惧種のホッキョクグマを通じて環境意識を高める「ホッキョクグマ応援プロジェクト」を、道内4動物園との協働で進めています。各動物園へ協賛金を贈るほか、園内への環境啓発パネル設置やイベント開催などさまざまな取り組みを行っています。

2009年より「エコ協賛キャンペーン」の売上1品につき2円を協賛金とし、このプロジェクトと「あすもり」に役立てています。2018年度は「エコ協賛キャンペーン」を10月1日～11月30日に実施し、365万654円の協賛金が活用されています。

■2018年度ホッキョクグマ応援プロジェクト協賛金

動物園（協定締結年月日）	贈呈式	2018年度協賛金額	2018年度事業内容
札幌市円山動物園（'09年4月27日）	2018年7月29日	300万円	・年間パスポート広報費 ・環境教育イベント 夏休みお宝探し 夏のZOOキャンプ（日帰り） アフリカ写真展
旭川市旭山動物園（'13年4月27日）	2018年9月11日	200万円	・環境教育イベント 夏休みお宝探し 夏&冬ZOOキャンプ アフリカ写真展
おびひろ動物園（'10年8月10日）	2018年7月16日	200万円	・環境教育イベント 夏休みお宝探し 夏のZOOキャンプ（日帰り） アフリカ写真展
釧路市動物園（'11年11月23日）	2018年7月14日	200万円	・環境教育イベント 夏休みお宝探し 夏のZOOキャンプ アフリカ写真展

トドック探検隊『真冬の旭山ZOOキャンプ』

2017年から、動物園で開催される環境教育情報のプラットフォームとして「トドック探検隊」の取り組みを始めました。コープさっぽろと動物園、各団体・企業が手を組み、多彩な環境教育イベント、プログラムを実施しています。

2019年1月12日・13日には、旭山動物園にて「真冬のZOOキャンプ」を開催しました。北極冒険家の荻田泰永氏をお招きし、極地での経験をお話しいただきました。さらに坂東園長も加えて夜の動物園を貸し切り、身近なもので防寒性のある寝床を作って冬空の下1時間寝てみたり、あざらし館で一晩を過ごしたりと、普段はできない体験を行いました。旭川市の小学6年生と保護者、9組21名が参加しました。

100kgのソリをハーネスを装着して引く体験

荻田氏の極地での経験を聞いた後、ダンボールや新聞紙など身近なもので寝床を作成しました

基本情報

名　　称	生活協同組合コープさっぽろ （生活協同組合市民生協コープさっぽろを2000年に名称変更）
創立年月日	1965年（昭和40年）　7月18日
創業年月日	1965年（昭和40年）　10月1日
本　　部	札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
役員（常勤）	●理事長　大見　英明 ●専務理事　中島　則裕 ●常務理事　岩藤　正和 ●常務理事　米内　徹 （2019年3月現在）
活動エリア	北海道全域（定款）
組合員数	1,762,681名（2019年3月20日） （北海道の世帯数　2,772,845世帯）（2018年1月末） 組合員組織率　63.6% （札幌市55.7%、旭川市75.9%、函館市74.3%、石狩市81.1%など）
出資金	72,903,778千円（2019年3月20日）
事業高	2,834億3,516万円（合計）（2018年3月21日~2019年3月20日） 1,889億3,583万円（店舗事業） 867億3,610万円（宅配事業） 18億5,118万円（共済事業） 59億1,204万円（その他）
従業者数	正規職員　2,257人 契約職員　2,139人 パート・アルバイト　9,017人 ※従業員数は子会社含む数値（2019年3月20日現在）

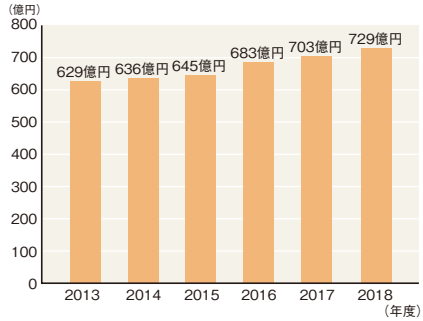
資料 出資金の状況

■年度別出資金動態

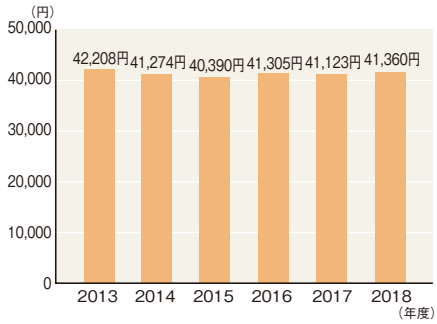
項目／年度	金額（千円）	前年比増加額（千円）	増加率（%） 前年比	増加率（%） 2013年度比
2013	62,917,555	902,366	102	100
2014	63,697,955	780,400	101	103
2015	64,466,901	768,946	101	104
2016	68,344,865	3,877,964	106	110
2017	70,278,859	1,933,994	103	113
2018	72,903,778	2,624,919	104	116

※上記出資金額には千円未満の預り金も含めて表示しています。
定款上の出資金（1口千円単位）は72,457,014千円です。

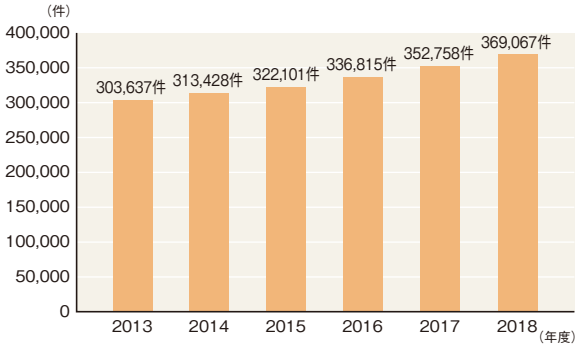
■年度別出資金残高



■1人当たりの平均出資金

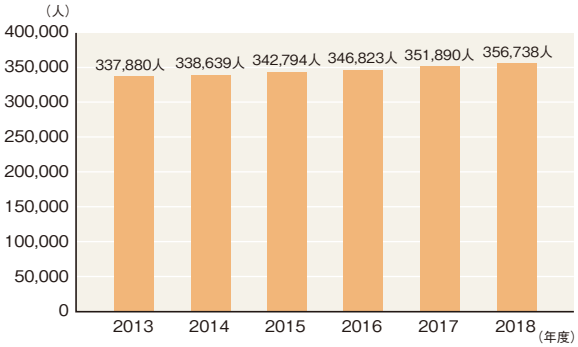


資料 宅配（トドック）の参加状況



資料 CO・OP共済の状況

■《たすけあい》共済の加入者数



組合員動態

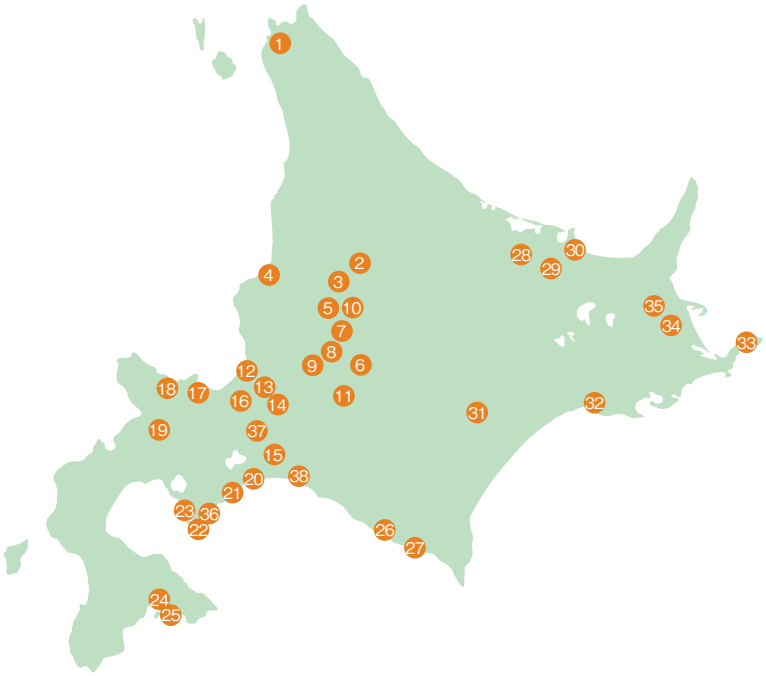
都市別組合員組織率

1,762,681名(63.6%)　2,772,845世帯

組合員数（組織率）　総世帯数

組合員数は2019年3月20日現在の登録で表記しています。
世帯数は2018年1月末の住民基本台帳を使用しています。

1	稚内市	5,239名(28.9%)	18,114 世帯
2	旭川市	134,883名(75.9%)	177,815 世帯
3	深川市	10,363 名 (94.4%)	10,983 世帯
4	留萌市	11,252名(95.6%)	11,768 世帯
5	滝川市	14,492名(67.2%)	21,560 世帯
6	富良野市	10,819名(98.6%)	10,972 世帯
7	砂川市	7,733名(86.5%)	8,939 世帯
8	美唄市	12,206名(103.2%)	11,822 世帯
9	岩見沢市	34,240名(81.9%)	41,805 世帯
10	赤平市	5,906名(98.6%)	5,992 世帯
11	夕張市	4,961名(101.7%)	4,876 世帯
12	石狩市	22,221名(81.1%)	27,405 世帯
13	江別市	38,344名(67.8%)	56,564 世帯
14	北広島市	23,334名(85.5%)	27,298 世帯
15	千歳市	22,748名(46.8%)	48,613 世帯
16	札幌市	584,452 名(55.7%)	1,048,469 世帯
17	小樽市	52,129名(80.9%)	64,462 世帯
18	余市町	8,865名(88.8%)	9,986 世帯
19	倶知安町	7,756名(85.7%)	9,055 世帯
20	苫小牧市	64,555名(73.6%)	87,716 世帯
21	白老町	8,885名(93.2%)	9,529 世帯
22	室蘭市	25,246名(54.6%)	46,265 世帯
23	伊達市	8,677名(48.4%)	17,925 世帯
24	北斗市	15,369名(69.4%)	22,148 世帯
25	函館市	106,384名(74.3%)	143,249 世帯
26	新ひだか町	8,898名(75.8%)	11,744 世帯
27	浦河町	8,008名(118.4%)	6,766 世帯
28	遠軽町	10,799名(103.6%)	10,421 世帯
29	北見市	42,089名(68.4%)	61,514 世帯
30	網走市	14,862名(81.1%)	18,324 世帯
31	帯広市	45,959名(52.7%)	87,166 世帯
32	釧路市	66,497名(70.2%)	94,682 世帯
33	根室市	7,449名(58.5%)	12,734 世帯
34	別海町	4,863名(72.9%)	6,668 世帯
35	中標津町	6,750名(60.7%)	11,121 世帯
36	登別市	16,265名(65.4%)	24,875 世帯
37	恵庭市	16,384名(49.9%)	32,818 世帯
38	むかわ町	4,141名(96.3%)	4,300 世帯
表記以外の市町村合計		268,658名(60.2%)	446,382世帯



■年度別組合員動態

項目 / 年度	組合員数（人）	前年比増加数（人）	増加率(%) 前年比	増加率(%) 2013年度比
2013	1,490,640	75,375	105	100
2014	1,543,280	52,640	104	104
2015	1,596,125	52,845	103	107
2016	1,654,657	58,532	104	111
2017	1,709,000	54,343	103	115
2018	1,762,681	53,681	103	118

※2013年3月20日、住所不明・未利用者995名を法定脱退処理しました。
※2014年3月20日、住所不明・未利用者696名を法定脱退処理しました。
※2015年3月20日、住所不明・未利用者308名を法定脱退処理しました。
※2016年3月20日、住所不明・未利用者176名を法定脱退処理しました。
※2017年3月20日、住所不明・未利用者434名を法定脱退処理しました。
※2019年3月20日、住所不明・未利用者2,800名を法定脱退処理しました。

■札幌市行政区別組合員組織率

中央区	49,709名(35.5%)	139,954世帯
北　区	87,456名(58.0%)	150,737世帯
東　区	65,422名(46.3%)	141,368世帯
白石区	73,245名(60.8%)	120,507世帯
豊平区	65,037名(52.1%)	124,908世帯
南　区	61,681名(85.1%)	72,488世帯
西　区	62,952名(56.0%)	112,479世帯
厚別区	38,858名(60.3%)	64,440世帯
手稲区	47,009名(68.5%)	68,639世帯
清田区	33,083名(62.5%)	52,949世帯

※札幌市行政区を限定しない組合員さんが2名いらっしゃいます。

事業所数と形態

本　部

本部	1
地区本部	8（帯広日高、釧路、北見、苫小牧、室蘭、函館、旭川、札幌）

店　舗

108店舗（2019年3月20日現在）28市18町

札幌市	25店舗	留萌市	1店舗	白糠町	1店舗
江別市	2店舗	函館市	9店舗	中標津町	1店舗
北広島市	2店舗	北斗市	1店舗	北見市	3店舗
石狩市	1店舗	苫小牧市	5店舗	網走市	1店舗
千歳市	2店舗	伊達市	1店舗	遠軽町	2店舗
小樽市	3店舗	木古内町	1店舗	美幌町	1店舗
余市町	1店舗	幕別町	1店舗	帯広市	2店舗
倶知安町	1店舗	むかわ町	1店舗	室蘭市	2店舗
岩見沢市	2店舗	白老町	1店舗	赤平市	1店舗
美唄市	1店舗	新ひだか町	1店舗	別海町	1店舗
夕張市	1店舗	浦河町	2店舗	登別市	3店舗
旭川市	8店舗	えりも町	1店舗	恵庭市	1店舗
深川市	1店舗	様似町	1店舗	福島町	1店舗
砂川市	1店舗	釧路市	6店舗	羽幌町	1店舗
滝川市	1店舗	根室市	1店舗		
富良野市	1店舗	釧路町	1店舗		

コープ宅配システムトドックセンター

33センター11デポ（2019年3月20日現在）

移動販売車

91台（全道128市町村）

生産工場

江別生鮮加工センター

リサイクル施設

エコセンター

葬儀場

フリエホールつきさむ

フリエホールしんことに

関係会社

株式会社エネコープ	株式会社コープトラベル
株式会社トドック電力	デュアルカナム株式会社
コープフーズ株式会社	コープトレーディング株式会社
株式会社ドリームファクトリー	コープ協同保険株式会社
北海道はまなす食品株式会社	シーズ協同不動産株式会社
北海道ロジサービス株式会社	シーズ協同開発株式会社
マテハンエンジニアリング株式会社	有限会社コープ協同サービス
株式会社大雪水資源保全センター	

2018年度の新工事

2018年10月	宅配　大谷地センター
2018年11月	トドックエコステーション「未来の森　資料室」

コープさっぽろの
活動に対する期待と意見

公立はこだて未来大学
システム情報科学部教授
美馬 のゆり氏

生産者と消費者をつなぎ学び合う機会をつくる

2018年、コープさっぽろの「食育研究会」で講演をする機会をいただきました。生産者やメーカーなど、食に関わる人々が集う学びの場となっていると感じました。コープさっぽろは生産者の知を消費者へ、消費者の声を生産者へと、学びの循環を作っています。特に農業賞のように消費者の視点から生産者を評価・表彰し、受賞者の生産物を広める取り組みは全国的にもあまり見かけません。

企業の社会貢献活動というと、環境・文化活動など本業と関係ない分野で行われるのが主でした。しかしコープさっぽろは、事業・活動そのもので社会に貢献でき、組織が続くことが本来のCSRです。近年注目されているCSRからCSV（共通価値の創造）の流れです。本業を通じて社会に貢献することが、持続可能な活動につながります。

消費者が日々の買物の中で食や食文化を学ぶ仕組みを

出張の際にスーパーで土地の物を購入するのを楽しみにしていますが、最近は全国チェーンの進出により、商品の均一化を感じます。スーパーは、食文化を守る役割も担わなければいけないのではないでしょうか。

コープさっぽろの、地場の生産者による「ご近所やさい」は良い取り組みです。しかし売場は分けず、他府県産の野菜と並べていいのでは。道産とそれ以外とどう違うのか、生産者の顔も見えつつ、フードマイレージやカーボンフットプリントなども提示し、消費者が考えて選べるといいと思います。

ただ「安い物がいい」と考えていると、めぐりめぐって自分たちの仕事を奪うのだということを、消費者はもっと考えていきたいものです。コープさっぽろにはさまざまな啓発イベントがありますが、今後は普段の買物の中で学べる仕組み、仕掛けを考えていくとさらにいいと思います。

すべてネットで買える時代、20年後の店舗の存在意義とは

コープさっぽろにも宅配サービスがあるように、今や物はネットからの注文で買えてしまいます。店舗が存続していくためには、人が集い、働いている人が誇りに思える場になること。店舗にしかできないことで差別化を図っていくことだと思います。

①**学びの場**…組合員さんだけでなく、地域の生産者、消費者すべての人の学びの場となる
②**交流の場**…店舗の4分の1～半分は交流スペースとなる。売場と学びの場、交流の場がつながっている
③**長時間営業の廃止**…働き方改革を実現し、店舗の営業時間は17時で終了
④**宅配網との連携**…流通・運送の仕組みとセットで考え、店舗の売場や営業時間の縮小は宅配でカバーされる

学びの場として店舗をデザインしていくことが、これからのコープさっぽろに求められている共通の価値を創造していくというCSVになっていくはずです。

つなぐ
COOP
SAPPORO

コープさっぽろ 秘書室
札幌市西区発寒11条5丁目10-1 〒063-8501
TEL.011-671-5602